

ジングウツツジ *Rhododendron sanctum* Nakai

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 3、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 4、総点 15。東海地方の蛇紋岩地を代表する固有種で、愛知県では生育地が少ない。

【形態】

落葉性の低木。高さ 2~4m になる。葉は枝先に 3 枚輪生し、長さ 5mm 程度の柄があり、葉身は卵円形~ひし状円形、長さ 4~7cm、幅 3~6cm、先端は短くとがり、基部は円形または鈍形、やや厚くて表面に光沢があり、辺縁は全縁である。花期は 5 月中旬~6 月上旬、新葉が展開した後に開花し、1 個の花芽から 2~3 個の花が咲く。花冠は紅紫色で上側内面に濃色の斑点があり、漏斗形で 5 中裂し、直径 3~4cm、花柱は無毛のものが多いが、有毛のものもある。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：9 鳳来南部 (芹沢 65621, 1993-5-28)、
12 新城 (小林 56995, 1995-5-28)。

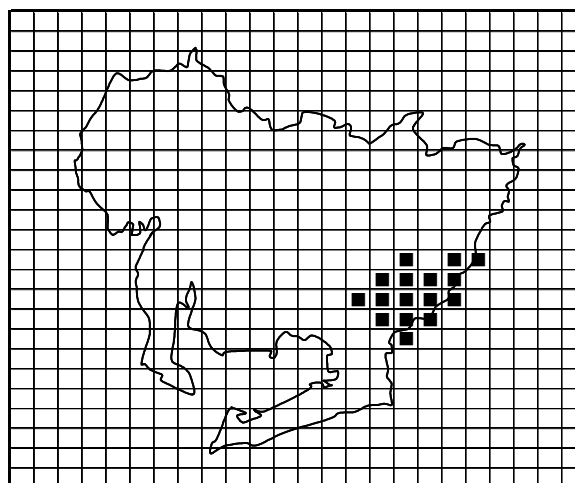
【国内の分布】

本州中部 (静岡県西部、愛知県、三重県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

蛇紋岩地の疎林に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

成木はあるが幼木は少なく、周辺の樹木の生長に伴い衰退傾向にある。園芸目的の採取も深刻で、盗掘して販売している人もいるらしい。

【保全上の留意点】

疎林に生育する植物なので、適度に伐採等を行い、森林化の進行を抑える必要がある。生育地は比較的よく知られている場所であるが、それでもこれ以上の園芸目的の採取を助長しないよう、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

ミツバツツジの類であるが、花は葉が展開してから咲く。シブカワツツジ var. *lasiogynum* Nakai ex Sugim. は花柱に毛がある型と考えれば、愛知県にはジングウツツジもシブカワツツジもある。しかし、「日本の野生植物」木本編 II のように枝は上に伸びる傾向が強くてほうき状の樹形になり、葉はやや大きく、中部よりやや下で最も幅広くなり、辺縁があまり巻かないものをシブカワツツジとするならば、狭義のジングウツツジは三重県に固有で、愛知県と静岡県のものは全てシブカワツツジになる。環境省のレッドリストではこの見解に従って評価が行われているが、こうするとジングウツツジとシブカワツツジが区別できるかどうかはかなり疑わしい。

【関連文献】

保木本 I p.156, 平木本 II p.138, 平新版 4 p.245, 環境省 p.467, SOS 旧版 p.68+図版 11, SOS 新版 p.58,60.